

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年11月13日 (2014.11.13)

【公表番号】特表2012-521973(P2012-521973A)

【公表日】平成24年9月20日 (2012.9.20)

【年通号数】公開・登録公報2012-038

【出願番号】特願2012-501315(P2012-501315)

【国際特許分類】

C 0 7 D 209/88 (2006.01)

A 6 1 K 51/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 D 209/88 C S P

A 6 1 K 49/02 C

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年9月24日 (2014.9.24)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 5 7 】

適切な脱離基には C l、B r、I、トシレート (O T s)、メシレート (O M s) 及びトリフレート (O T f) が挙げられる。もう 1 つの戦略は、前駆体化合物に存在するアルキルアミド基上の所定位置に適切な脱離基を有することである。いずれの場合も前駆体化合物は、普通は核反応 $^{18}\text{O}(\text{p}, \text{n})^{18}\text{F}$ から水溶液として得られ、カチオン性対イオンの付加及びその後の水の除去によって反応性になる $[^{18}\text{F}]$ フッ化物イオン ($^{18}\text{F}^-$) の適切な供給源と反応することによって、一段階で標識することができる。 ^{18}F は、前駆体化合物のヒドロキシル基を $^{18}\text{F}(\text{CH}_2)_3\text{-LG}$ (LG は上記で定義した脱離基を表す) で O - アルキル化することによって導入することもできる。或いは放射性フッ素原子は、ベンゼン環などの芳香族環との直接共有結合を介して結合することができる。アリール系では、アリールジアゾニウム塩、アリールニトロ化合物又はアリール第 4 級アンモニウム塩の ^{18}F - フッ化物求核置換が、アリール - ^{18}F 誘導体に適した経路である。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

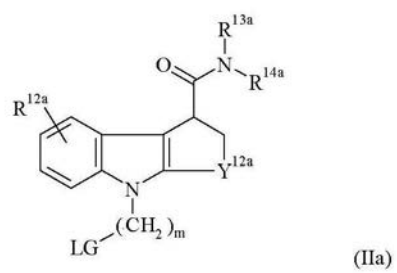
【訂正対象項目名】0 0 6 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 6 1 】

【化 1 1】



(式中、
 LG は、メシレート、トシレート及びトリフレートから選択され、
 $R^{12a} \sim R^{14a}$ 、 Y^{12a} 及び m は、適切にはそれぞれ式I aの $R^{2a} \sim R^{4a}$ 、 Y^{2a} 及び n について
 上記で定義した通りであることが好ましい]
 の化合物である。